

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

「神を畏れ隣人を愛することば」

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「兄弟愛をもって互いに愛し、尊敬をもって互いに相手を優れた者と思いなさい。」(ロマ12:10)

ある新聞記事で、日本遺伝子学会が遺伝法則に用いてきた用語で、「優性」を「顕性」、「劣性」を「潜性」に改め、「変異」や「異常」を「多様性」という言葉に改定したという記事をとても福音的なニュースとして読みました。「バリエーション」の訳語として「異変・異常」を使い続けてきたことに驚きましたが、ナチスの愚行にもつながった「優生思想」を思い起こしました。遺伝学用語として使われてきた「優性」「劣性」は、遺伝子の特徴の現れやすさを示す訳語でしたが、例えば「劣性遺伝」という言葉を聞くと、マイナスのイメージが強く、不安を覚えてしまうからだそうです。

聖書の中でもかつては「らい病」という言葉が使われ、現在の新共同訳では「重い皮膚病」となっていますが、これも様々な誤解を与える表現だと認識されていて、新翻訳聖書でも適切な表現を模索しているようです。

一方で現代の言葉の変化はさまざま、中高生の世代が使う言葉や大学生の世代が使う言葉を理解するのは至難の業です。例えば、とても良いことも悪いことも「マジ・ヤバイ」(本当にすごい)という一言で表現したりしますし、今年の流行語大賞は「神ってる」でした。直感的・短絡的に「あの人たちマジ・ヤバイよね」で済ませてしまって、自分たちとなんとなく違うし受け入れられないからと、その背景や取り巻く環境には無関心なままでよいのだろうかと考えてしまいます。

イエスさまは、最も重要な愛の掟を教えられる前に、復活についての問答の中で「あなたたちは聖書も神の力も知らないから、そんな思い違いをしているのではないか。…あなたたちは大変な

□会議・プログラム等予定

(9月25日以降)

9月

28日(木) 文書保管委員会〔管区事務所〕

10月

2日(月)～4日(水) 大韓聖公会出身教役者会〔横浜〕

3日(火) 管区共通聖職試験委員会〔管区事務所〕

5日(木) 礼拝委員会〔管区事務所〕

10日(火) 常議員会〔管区事務所〕

16日(月) 収益事業委員会〔管区事務所〕

24日(火)～26日(木) 定期主教会〔志木〕

27日(金) 管区人権問題担当者会議〔管区事務所〕

30日(月) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議〔管区事務所〕

31日(火) 教役者遺児教育基金・建築融資金委員会〔管区事務所〕

11月

6日(月)～9日(木) 日韓協働合同会議・研修会〔韓国・天安〕

8日(水)～10日(金) MtS 宣教研修会〔神戸〕

10日(金) 正義と平和・ジェンダープロジェクト会議〔管区事務所〕

13日(月) 正義と平和委員会〔京都〕

15日(水) 財政主査会〔管区事務所〕

15日(水) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議〔沖縄〕

16日(木) 主事会議〔管区事務所〕

17日(金)～18日(土) 礼拝・礼拝音楽担当者会〔神戸〕

30日(木) 臨時主教会〔仙台〕

<関係諸団体会議・他>

9月30日(土) 史談会〔管区事務所〕

10月2日(月)～6日(金) 首座主教会議〔英国・カンタベリー〕

4日(水) NCC 役員会・常議員会〔早稲田〕

11日(水)～16日(月) CCEA 主教会〔ミャンマー・ヤンゴン〕

11日(水)～17日(火) CCA 宣教会議〔ミャンマー・ヤンゴン〕

(次頁へ続く)

思い違いをしている。(マルコ12:24, 27)」と語られています。自己中心で狭い視野になりがちな私たちに、「そこに愛はあるのですか」と、問いかけられているのではないのでしょうか。



(前頁より)

- 16日(木)～18日(土) 聖公会社会福祉連盟大会〔沖縄〕
- 18日(水)～20日(金) 日本キリスト教連合法人人事務・会計実務研修会〔富士箱根ランド〕
- 23日(木) カトリック・ルーテル宗教改革500周年記念合同礼拝〔長崎〕
- 25日(土) BSA90周年記念礼拝〔東京・聖アンデレ教会〕
- 29日(水) マイノリティ宣教センター理事会〔早稲田〕
- 29日(水) 同宗連第4連絡会研修会〔バルナバホール〕

□主事会議

第62(定期)総会期第7回 2017年9月12日(火)

<主な報告・協議>

1. 海外出張承認について、下記の通り承認した。
 - ・8/28-30 韓国/ソウル 日韓 NCC-URM-移住民協議会 司祭原田光雄
 - ・8/30-9/8 南アフリカ/ダーバン 世界改革派教会—世界聖公会国際委員会(IRAD)の全体会議 司祭西原廉太
 - ・10/11-16 ミャンマー/ヤンゴン CCEA 主教会 主教三鍋 裕・司祭小林 聡
 - ・10/11-16 ミャンマー/ヤンゴン CCA 宣教会議 聖職候補生下条知加子、聖職候補生松山健作、篠田 茜
 - ・10/23-25 スイス/ジュネーブ WCC 中央委員会 司祭西原廉太
2. 「平和宣教教育活動資金」申請について 横浜教区より広島平和礼拝・長崎原爆記念礼拝への参加者3名の申請があり、承認した。
3. 青年委員会の委員追加について 聖職候補生松山健作(京都)、松村 希(中部)を青年委員に追加することを承認した。
4. 第40回 NCC 総会代議員について NCC 第40回総会(2018/3/19-20 神田キリスト教会)の日本聖公会からの代議員として、司祭西原廉太、司祭須賀義和、前島恵(以上3名常議員)、司祭市原信太郎、司

祭太田信三、司祭神崎和子、司祭笹森田鶴、司祭竹内一也、司祭矢萩新一、植田栄基、金子登美江、児玉勢津子、高橋 保の14名登録について承認した。

5. NCC 次期総会期負担金について NCC 次期総会期負担金(1,568,000円)維持の要望について承認した。
 6. 米国聖公会 ERD への緊急災害援助について 米国のハリケーン・ハービーおよびイルマなどの被災者支援について、米国聖公会 ERD への50万円相当ドルの送金を承認した。
 7. 教役者給与調整資金について 2019年度より下位2教区へ上限400万円として按分補助することを承認した。
 8. 神学教理委員会の「同性婚」についての資料抄訳について 米国聖公会第78総会に提出された「結婚の研究に関する作業部会」報告書の抄訳を神学教理委員会が作成し、総会などの配布資料や研究用の資料とすることを承認した。
- 次回および次々回会議:11月16日(木)、2018年1月25日(木)

📖 出版物案内

- ・『2018年度 教会暦・日課表』
2017年10月15日付発行 頒価300円(税込)

□各教区

東北

- ・第100(定期)教区会 11月3日(金) 13時半～4日(土) 正午 主教座聖堂 仙台 基督教会礼拝堂・ビンステッド記念ホール

東京

- ・教区フェスティバル 2017 9月18日(月・休) 10時半～ 立教女学院 聖マリア礼拝堂 司式:主教大畑喜道(台風のため中止)

横浜

- ・第77(臨時)教区会 11月4日(土) 10時半～16時半 横浜聖アンデレ主教座聖堂

日本聖公会横浜教区主教選挙のため

中部

- ・第89(定期)教区会 11月23日(木) 9時～16時 主教座聖堂 名古屋聖マタイ教会

京都

- ・第112(定期)教区会 11月23日(木・祝) 9時～17時 主教座聖堂・教区センター会議室

大阪

- ・教区礼拝 / 聖餐式 9月24日(日) 10時半 プール学院中高 清心館 司式・説教:主教磯晴久

□神学校

聖公会神学院

- ・2017年度体験入学 10月4日(水)～6日(金) *5日(木)のみ1日参加可 定員:男性4名・女性2名 費用:全日程12,000円(食事・宿泊費を含む) /5日(木)のみ参加6,000円 問い合わせ:聖公会神学院事務局 電話:03-3701-0575

ウイリアムス神学館

- ・2017年度体験入学 10月10日(火)～12日(木) 定員:10名 対象:18歳(高卒)以上の方 費用:15,000円(食費/宿泊費を含む) 申し込み先:ウイリアムス神学館 電話:075-431-5406

公 示

救主降生 2017年9月25日
日本聖公会首座主教
主教 ナタナエル 植松 誠 ㊞

神のおゆるしがあれば、
主教被選者 司祭 ヨハネ 吉田雅人 師の主教按手式および日本聖公会東北教区主教就任式を下記のとおり執行いたします。
主にあるみなさま、ことに日本聖公会に属する信徒・聖職の代祷を求めます。

記

日 時:2017年11月30日(木)
使徒聖アンデレ日 13:00～
説教者:主教 ローレンス 三鍋 裕 師父(横浜教区主教)
場 所:日本聖公会東北教区主教座聖堂
(仙台基督教会)
〒980-0803
仙台市青葉区国分町2-13-15
※祭色は赤を用います。

以上

□関係諸団体

- ・日本聖公会社会福祉連盟第58回大会・研修会 テーマ:「命(いのち)」 11月16日(木)～18日(土) 三原聖ペテロ聖パウロ教会(沖縄) 問い合わせ:日本聖公会社会福祉連盟西部幹事会事務局 電話:06-6301-0367



†逝去者 霊魂のパラダイスにおける光明と平安を祈ります。

エリザベス伊達安子 (東京・管区広報主査) 2017年7月31日(月) 逝去(92歳)

《人事》

北海道

執事 クリストファー永谷亮 2017年7月14日付 小樽聖公会牧師補の任を解く。
 司祭 クリストファー永谷亮 2017年7月15日付 小樽聖公会副牧師に任ずる。

東北

主教 ヨハネ加藤博道 2017年8月31日付 主教座聖堂付を解く。
 2017年9月1日付 磯山聖ヨハネ教会牧師に任命する。
 司祭 ドミニコ李 贊熙 (大韓聖公会大田教区、宣教協働者)
 2017年8月31日付 磯山聖ヨハネ教会管理牧師の任を解く。

大阪

主教 アンデレ磯 晴久 2017年8月1日付 司祭マルチン韓相敦の休暇終了帰任に伴い、
 高槻聖マリヤ教会管理牧師の任を解く。
 司祭 ベテロ岩城 聰(退) 2017年8月1日付 高槻聖マリヤ教会における囑託司祭としての主
 日勤務の委嘱を解く。
 司祭 ベテロ松山龍二(退) 2017年8月1日付 高槻聖マリヤ教会における囑託司祭としての主
 日勤務の委嘱を解く。
 司祭 ヨシュア原田光雄 2017年8月31日付 東豊中聖ミカエル教会牧師・聖ミカエル保育園
 園長の任を解く。
 2017年9月1日付 大阪教区主教座聖堂付とする。恵我之荘聖マ
 タイ教会および富田林聖アグネス教会の協力司祭
 として主日勤務を命ずる。
 司祭 ジョイ千松清美 2017年9月1日付 東豊中聖ミカエル教会管理牧師・聖ミカエル保
 育園園長に任命する。
 司祭 ダニエル山野上素充(退) 2017年9月1日付 司祭ジョイ千松清美のもと東豊中聖ミカエル教
 会において囑託司祭として主日勤務することを
 委嘱する。

神戸

司祭 オーガスチン小林尚明 2017年9月22日付 徳島インマヌエル教会牧師の任を解く
 鳴門聖パウロ教会管理牧師の任を解く
 富岡キリスト教会管理牧師の任を解く
 司祭 ヨハネ芳我秀一 2017年9月23日付 徳島インマヌエル教会管理牧師を委嘱する
 司祭 ミカエル小南 晃 2017年9月23日付 鳴門聖パウロ教会管理牧師を委嘱する
 富岡キリスト教会管理牧師を委嘱する

沖縄

司祭 ^{ハム ユンスク}クララ咸 允淑 (大韓聖公会ソウル教区所属)
 2017年9月1日付 大韓聖公会ソウル教区よりの出向を受け入れ、
 沖縄教区主教座聖堂付勤務を命ずる。

《教会・施設・個人》

山手聖公会(横浜) FAX専用回線番号変更 (旧) 045-621-3445
 (新) 045-264-8156

金沢聖ヨハネ教会(京都)	2017年9月17日	礼拝堂聖別式 住所変更	〒920-0935 金沢市石引4丁目3番1号 TEL 076-221-6715/FAX 076-264-2086
聖ヨハネ保育園(京都)	2017年9月16日	保育園落成式 住所変更	〒920-0935 金沢市石引4丁目3番1号 TEL 076-264-2006/FAX 076-264-2086
司祭 ダビデ市原信太郎(中部)	FAX 番号変更	(新) 03-6809-1799 (旧) 03-4520-9588	2017年9月末失効

比叡山宗教サミット30周年記念

「世界宗教者平和の祈りの集い」

首座主教 北海道教区主教 ナタナエル 植松 誠

比叡山宗教サミットが、その30周年を記念して今年も京都と比叡山で開かれた。そもそもこの比叡山宗教サミットというのは、1986年10月、ヨハネ・パウロ二世教皇の呼びかけでイタリアのアッシジで開催された世界の諸宗教代表者会議に端を発している。そこには世界中から124名の宗教指導者が集い、聖公会からも当時のカンタベリー大主教ロバート・ランシー師父はじめ何人も主教が参加した。そして、各宗教の伝統と形式により、各自が信じる人間の力をはるかに超える存在(神仏)に平和を願い求める熱烈な祈りが捧げられた。比叡山宗教サミットは、そこに参加した天台宗座主の山田恵諦師が「アッシジの精神」を引き継いで、比叡山で行なおうと提唱し、翌年の1987年8月、「比叡山宗教サミット・日本宗教代表者会議」として始まったものである。それ以来、毎年8月4日、日本の主だった宗教各宗派・教派から、また世界の諸宗教から代表者が京都に集い、平和について話し合い、そして、比叡山延暦寺で「世界宗教者平和の祈りの集い」を行なってきて、今年がちょうど30周年となった訳である。ちなみに、アッシジでの世界宗教代表者会議も昨年、30周年を記念する集いがアッシジで開かれている。1987年の第一回比叡

山宗教サミットには、当時大阪教区の司祭であった私も、首座主教の木川田一郎主教(大阪教区主教)の随行として参加したことを思い出す。

日本宗教代表者会議主催の比叡山・世界宗教者平和の祈りの集いは毎年行なわれるが、今までも10周年、20周年には規模を拡大して、日本のみならず世界の諸宗教に呼びかけて、平和に関する会議を開き、講演、パネルディスカッション、シンポジウム、分科会などを行なってきた。今回も30周年ということで、海外から30数名の宗教代表者(仏教、キリスト教、ユダヤ教、イスラム教、民族宗教など)、また日本からは2,000名ほどの参加者が京都の国立京都国際会館に集まって、3日と4日に基調講演、シンポジウム、分科会などが開かれ、日本聖公会からは、西原廉太司祭が分科会「貧困の追放と教育の普及」でコーディネーターを務めた。

3日の夜、参加者は京都の夜景を一望できる天台宗青蓮院將軍塚青龍殿舞台での「鎮魂の祈り」に参加した。カトリック教会のグレゴリオ聖歌の奉唱、天台声明、イスラムのクルアーン読誦が流れ、私が日本宗教代表者議長団の一人(日本キリスト教連合会委員長)として、「鎮魂の祈り」を捧げた。戦争、紛争、内乱、宗教抗争で

犠牲となった人、自然災害で亡くなった人、飢饉や貧困で餓死したり、難民となってその途上で亡くなった人々などを覚え、参加者一同黙祷を捧げた。

8月4日は、午後比叡山延暦寺に移動し、世界宗教者平和の祈りの集いがもたれた。諸宗

教が、互いに違いを認めて尊敬しあい、各自、自分の信仰に基づいて捧げる平和の祈りであるが、この分裂し、混沌とした世界に、宗教者が祈りの内に平和な世界実現に向けて連帯・協働でき得ることを実感させられ、希望と勇気が与えられる集いとなった。

大執事ヨハネ伊藤八十二生誕130周年の記念行事に出席して

—ブラジルの日本人移住者を励ました開拓伝道者の跡をたどる—

沖縄教区主教 ダビデ 上原榮正

ブラジル聖公会・サンパウロ教区では、8月4日から14日までの10日間、伊藤八十二生誕130周年の記念行事が行なわれ、私と妻が参加をしました。ブラジル聖公会には、伊藤八十二司祭の伝道によって建てられた幾つかの日系人教会があります。しかし日系人の殆どが、2世、3世、4世となり、日本語を話す人も少なくなり、教会離れが起き、日系教会の存続が危惧されています。今回の記念行事は伊藤司祭の伝道への熱意を学ぶと共に、日系人への再伝道を目的として行なわれました。

伊藤八十二司祭は、1882年に長野県に生まれ、1900年、高等小学校を卒業します。進学のため補習科に入り、高遠町キリスト教講義所で英語と聖書からキリストの生涯を学びました。1909年に東京航海学校に入学、卒業後、見習い士官として、遠洋航海中、暴風に遭い、難破し、海に沈みました。伊藤司祭は海の中で、「神のみ心ならば、助けて下さい。救われたなら、神の僕として、一生仕えます。」とお祈りをしました。

遭難から帰還した伊藤司祭は献身し、大阪川口聖三一神学校次いで聖公会神学院を1919年に卒業し、3年間アメリカで労働して伝道資金を得ました。1923年にブラジルへ渡り、先に一伝道者として、その後ブラジル聖公会の聖職者として、ジャングルの奥地で働く日本人家族を一人ひ

とり訪ねて、福音を伝えました。

今から100年前の日本は貧しく、多くの人々が米国や中南米に移民しています。移民者全員が成功したのではなく、事故、病気、ケガ、事件や詐欺などで、働き手や資金を失うなどして挫折した人も大勢いました。人々は常に困難や労苦の中にありました。伊藤司祭は電気や水道もない時代、船に乗り、汽車に乗り、馬に乗り、徒歩でジャングルの奥地を訪ねて、人々を励まし、慰め、勇気付けました。伊藤司祭の伝道の熱意は2,500人の人びとに洗礼を施し、日本人聖職者を養成し、幾つもの教会を形成しました。今、そのブラジル日系人教会が消えかけようとしています。



新しく掘られた井戸の聖別・祝福式

サンパウロ教区は、女性聖職、同性愛などで分裂を繰り返し、最盛時の4分の1になったと言

われます。日本語を話せる聖職者も少なくなり、日系社会への宣教、伝道の働きが困難に直面しているとのことでした。旅の引率者・玉置幸子姉



サン・パウロの聖ヨハネ教会で
ブラジル聖公会首座主教と

の夫・玉置政和司祭は日系2世で、1977年にウィリアムス神学館に入学、卒業後ブラジルで献身された方ですが、玉置司祭も今年10月に定年を迎えられます。

日本へ働きに来ているブラジル日系人へ支援や取り組みも日本聖公会に求められています。ブラジル日系人、殊に日本語を話す2世、3世の人々は、日本への強い思いがあります。その思いを汲み取りながら、ブラジル聖公会と日本聖公会はどのような宣教協力ができるかが課題となっています。最後に、伊藤八十二大執事の生誕130年記念行事を企画し、ブラジルへとお招き下さったサンパウロ教区の日系教会の皆さまに深く感謝し報告とします。

〈特集〉2017・広島／長崎「平和への祈り」

広島平和礼拝 2017 の報告

—平和を考える発信地 `広島、から—

神戸教区 執事 テモテ 遠藤洋介

主の平和

8月5日から8月6日の2日間、広島平和礼拝2017が行なわれました。今年は土曜日、日曜日ということもあり、全体的にどのプログラムも参加者が多い平和礼拝となりました。

プログラム始めの「碑巡り」では、原爆資料館の一部が改装されたことで、広島平和礼拝に何度も参加されている方でも、新しい気付きが与えられたのではないのでしょうか。被爆証言は、広島県の助産師第一号の故 益田^{こえん}小^{いしなみ}を母に持ち、ご自身も長年「レイエム碑」の指揮者をしておられる、益田遥さんでした。母 小^こを被爆体験や、ご自身が被爆証言をしようと思ったきっかけ、レイエム碑の活動についてなどをお話してくださいました。私は何度か、被爆証言を聞かせていただいています。益田遥さんのお話をお聞きし、戦争の恐ろしさ、悲しさを伝える

方法は様々なのだと思いました。語ること以外にも歌や絵画、写真や映像などによって伝えることも一つの方法だと感じました。戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えていくということが中心にあれば、伝え方や用いるツールは異なっても、戦争を知らない次の世代に一番重要な部分はきちんと伝わっていくのだと思いました。

今年は8月6日が主日ということもあり、広島原爆逝去者記念礼拝及び記念聖餐式どちらも比較的多くの方にご出席いただきました。広島原爆逝去者記念礼拝の中で8時15分に一分間の黙祷をし、10時30分から広島原爆逝去者記念聖餐式を行ないました。

また、主日ということで広島だけではなく他の教会や各地で8月6日を迎えられた方々も、同じ時間に礼拝を行ない、代祷の中で原爆や戦争で亡くなられた方々の魂の平安を共に祈りされ

たと思います。そのことも覚えながら、今年の広島平和礼拝を終えました。

そもそも広島平和礼拝の意義を考えてみますと、被爆地広島という場所だけの問題ではないように思います。長崎や沖縄もちろんですが、私が5月から住んでいる呉や神戸、東京、横浜、大阪などの空襲被害に遭った各地域など、戦争の悲惨さを伝える場所は決して被爆地だけではありません。また、パレスチナ、ソマリア、キプロスなどの中東地域をはじめとした現在も戦争・紛争が続いている地域は平和礼拝を毎年行なっている私たちに祈り続けながらも、戦争の抑止、核兵器の廃止を訴えるの必要性を与えています。戦争の被害を受けた、もしくは受け続けている場所は、当たり前のことなのですが、広島だ

けではありません。そういった意味で、広島平和礼拝の意味は、72年前に広島に落とされた原爆によって亡くなられた方々のための礼拝であり、また、戦争の被害に遭ったすべての地域、さらに今もなお戦争、紛争、テロ、弾圧などによって苦しむすべての方々のための礼拝なのだと思います。

来年はどのような形で広島平和礼拝を続けていけるのかはわかりませんが、来年も8月6日、祈りを通して、戦争の悲惨さと平和の尊さを共に考えていけたらと思います。戦争による傷は癒えることはありませんが、少しずつでも広島が悲惨な被爆地から、平和を考える発信地になっていければ良いと思っています。



広島平和礼拝での集合写真

被爆72年長崎原爆記念礼拝

—すべての被爆者を覚えて主の平和の実現のために—

長崎聖三一教会信徒 熱田絵美

2017年8月9日、10時半から「被爆72年長崎原爆記念礼拝」が長崎聖三一教会にて行なわれました。今年は直前に台風5号が接近し、各地から来られる方たちが、ぎりぎりまで参加を検討しなければならぬ事態となりました。

幸い台風は南九州から四国へとそれましたが、大変残念なことに、京都平安女学院からの23名の参加がキャンセルとなりました。古本みさ司祭が引率されてこられる予定で、受け入れの準備を嬉々としていただけに残念でした。他にも

キャンセルがあり70名の参加予定で準備していましたが、結局46名の参加となりました。

長崎では、一昨年の礼拝から献花をリース型にして、皆さんが献花を終えるとき綺麗な花のリースができるように工夫していましたが、今年は十字架の台を作り、花の十字架を祭壇にささげました。前日から武藤主教夫人も暑い中手伝ってくださり、オアシスの台をレインボーファン、馬酔木、ローズマリーといったグリーンで埋めました。当日は十字架の真ん中をトルコキキョウとユウギリソウで飾り、献花は白いカーネーションにしました。



被爆72年 長崎被爆記念礼拝の様子

説教は大韓聖公会釜山教区の朴東信（パクドンシン）主教が「深く憐れむ（痛みに共感する）神様」という題でなさいました。九州教区の李相寅司祭が通訳として立たれ、あとで要約した文章も配られました。陪餐は、横浜教区の三鍋裕主教、沖縄教区の戸塚鉄也司祭、神戸教区の長田吉史司祭によって執り行なわれました。

昼食後の被爆証言は、山川剛（やまかわたけし）氏を講師に迎えてお話しいただきました。小学3年生の時に爆心地から4.3kmのところで被爆された山川さんは平和に関する著書も多数出しておられ、今も精力的に被爆体験の語り部として活躍しておられます。

長崎聖三一教会では3年前から記念礼拝終了後、フィールドトリップを行なっています。二手に分かれていますが、ひとつは碑めぐり、原爆落下中心地周辺の前爆遺構を回るものです。今年は、中心地公園と城山小学校でした。城山小学

校は、爆心地から500メートルのところであり、当時ここで作業していた三菱兵器製作所の職員、158名中138名が爆死しました。



平和の同心円を世界に広げる祈り

もう一つは、「聖公会さるく」。「さるく」とは、「町をぶらぶら歩く」という意味の長崎弁です。毎年同じコースですが、日本聖公会発祥のゆかりの地を見て回ります。もともと教会の有志で、3年前に「歴史の会」という長崎聖三一教会の歴史を勉強する会を発足したのがきっかけで、被爆70年を記念して、何とか皆さんをご案内できないかと思ったことから始まりました。ウィリアムズ師居宅跡、英国聖公会会堂碑、出島神学校、原爆とは直接の関係はありませんが、全国各地から来られる信徒の皆さんにぜひご紹介したいところです。



被爆72年 長崎被爆記念礼拝での集合写真

私たちのこの毎年の取り組みは、決して大きなものではありませんが、テーマの言葉にある「平和の同心円」をこの被爆地長崎から世界へ向けて広げていきたいと願っています。

聖公会国際礼拝協議会・国際典礼学会の報告

中部教区 司祭 ダビデ 市原信太郎

礼拝委員会・祈祷書改正委員会から派遣される形で、標記の会合に参加したので簡単に報告する。

1. 聖公会国際礼拝協議会 (International Anglican Liturgical Consultation, IALC)

日時：2017年8月4日(金)～6日(日)

場所：ベルギー・ルーヴェン市 Leuven Institute for Ireland in Europe

前回(2015年)のモントリオールでのIALCにおいて、これまで 国際典礼学会 (Societas Liturgica, SL) とリンクする形(同一の地域・SLに先だっでの開催) で実施されてきた2年に1回の会合を、この形から切り離すことが決議され、今回はその後初めてのSLの開催に当たっていた。今回のIALCは、リゼット・ラーソン＝ミラー議長の「せっかくのSLの機会に何も行なわれないのは、神学者の参加が減少している現状を見てもよくない」という意図を反映させた、「地域ミーティング」と銘打った小規模な会合であった。

全体的に、「IALCを実施する」という目的は果たしたものの、短期間にいくつもの課題を詰め込み消化不良というのが率直な感想である。しかし、情報交換などにおいて非常に有意義な機会であり、アングリカンという文脈を共有している安心感をもって話ができるというIALCならではの良さを感じることもできた。

毎回IALCの礼拝では何らかの強い印象を持って帰ってくるが、ハンセン病者の為に尽くし命をも献げたダミアン神父の廟の前で説教をさせていただいたことが、今回個人的には大きなことであった。

2. 国際典礼学会 (Societas Liturgica, SL)

日時：2017年8月7日(月)～12日(日)

場所：ベルギー・ルーヴェン市 Maria-There

sia College (ルーヴェンカトリック大学)

SLには今回初めての参加で、しかも英語の他、仏独語が合わせて公用語ということも相まって不安も多かったが、IALCで顔見知りのアングリカンメンバーがたくさん参加しており、また日本のカトリック教会からも宮越俊光氏が参加されており、思いの外安心感があった。

主な内容は午前中に行なわれる計6本の主プレゼンテーションと、午後行なわれる各日4コマほどの論文セッションである。主プレゼンテーションは、英独仏語のいずれかで行われるが、原稿が配られるため自分の知らない言語であっても何とかなる(ことになっている)。午後の論文セッションは、十数ヶ所の会場に分かれての研究発表であり、それぞれのコマの中で自身が興味ある内容をピックアップして聴講する。(興味のある方は、<https://goo.gl/SBCjgv> に各発表のタイトル等を和訳と共に置いてあるのでご覧頂きたい。)

毎朝夕の礼拝はさまざまな形式や言語によって行なわれ、バリエーションについていくのが大変という部分もあったが、貴重な経験ともなった。小生も日本語で代祷の一つさせてもらった。

また、一週間にも及ぶ会合であり、研究発表以外にもさまざまなプログラムが用意されていた。その中で特に意義深かったのは、典礼刷新運動やエキュメニズム運動発祥の地とも言える、ボードゥアンゆかりのシュヴトーニュ修道院を訪ねるプログラムであった。その現場に身を置くことができた幸いに感謝した。

sacramentというテーマでの会合であったが、非常に広範囲に及ぶトピックであり、この会議の内容が直接祈祷書改正などの作業に役立つという性質のものではないだろう。しかし、「視点」「視野」ということで言うならば、どのよ

うなことが話題になり、どういう論点でそれに取り組まれているか、ということ共有できるだけでも大きな意味があると感じた。また、IALCにも共通することだが、この場に身を置くことによって得られる情報やコネクションは貴重なものであり、その点でも得がたい場であることを実感した。さまざまなリソースに乏しい日本聖公会だからこそ、こういった場に積極的に参加し、その成果を吸収しつつ事に当たるのが求められている、そのような印象を受けて帰国した。



IALC 主日聖餐式・ダミアン神父廟で説教する市原信太郎司祭

聖公会「女性」フォーラム@東京 —2017.7.16 - 7.17—

東京教区 聖職候補生 セシリア 下条知加子

第25回“聖公会「女性」フォーラム”が7月16日～17日、東京教区の聖パウロ教会を会場に、北海道から熊本まで約40名が参加して行なわれました。今回のテーマは「神の豊かさの中で～多様な性を回復し、自分たちを問い直す～」選ばれた聖書箇所はガラテヤの信徒への手紙3章26-28節でした。開会礼拝と閉会聖餐式でこの箇所が読まれたのですが、新共同訳とちょっと違う訳なので紹介させていただきます。

「あなたがたは皆、神の子たちです。なぜなら、キリストの中へと洗礼を受けた人たちは皆、キリストを着たのです。ユダヤ人もギリシャ人もありません。奴隷も自由人もありません。男と女もありません。なぜなら、あなたがたは皆、一人だからです。」(『虹は私たちの間に-性と生の正義に向けて』山口里子著(新教出版社) p.290)

開会礼拝の司式とお話、発題講話は平良愛香さん(日本キリスト教団



講話をされる平良愛香さん

三・一教会牧師)。まず聖書のお話から、ユダヤ人とギリシャ人(異邦人)、奴隷と自由人というもの、男と女というのさえ人間がつくった差異なのだというパウロのメッセージに、あらためて強烈な印象を受けました。講話では、ご自身の生まれた頃から男性同性愛者であることをカミングアウトして牧師として働く現在までの経験をお話してくださいました。その中心は「(神に造られた)そのままがいいんだ。人間が作った差異なんて、たいしたことない、いや無意味だ。神の前で、その線引きは不要なのだ!」ということだったように思います。たとえ頭ではわかったような気がしても、感覚的にはなかなか乗り越えられないのがわたしたち人間なのだと思います。また、平良愛香さん作詞・作曲の「主につくられたわたし」、「おへんじ」や「かみさまのあいは(すべての人バージョン)」をともに歌う中で、わたしたちがしなくてよい・してはならない線引きを本当に沢山してしまっていること、わたしたちは一人ひとりそのまま神様にタププリ愛されていることを強く感じました。

夕食後は“井戸端会議”。豊かで解放された分ち合いの時間、毎回のフォーラムに欠かせない時となっています。2日目は①ジェンダー、②教育、③環境・原発、④平和という課題につい

て、それぞれが関心のある課題を選び、グループに分かれて話し合いをしました。そしてグループ毎に代祷を作り、閉会聖餐式でお献げしました。

閉会聖餐式は按手を受けられたばかりの中尾貢三子司祭が司式・説教をしてくださいました。「わたしたち一人ひとは、神様が手間暇かけて一人ひとりユニーク（唯一無二）な存在としてつくられたいのちである」「神様がおつくりになったその人らしさを十分に生ききることを支えるということが、教会共同体に求められていること」というメッセージが印象に残りました。

東京教区の聖職按手式などいくつかのプログ

ラムと重なってしまい、残念ながら部分参加となった方もおられました。本当に豊かな分かち合いと交わりの時を持つことができました。心から神様に感謝。次回（来年）は北海道で行なわれる予定です。みなさま、一緒に参加しませんか！



LGBTを象徴するレインボーフラッグをイメージして（開会礼拝）

第22回 GFS 世界会議（オーストラリア パース）に出席して

GFS 会長 大阪教区 ルツ 岡墻歩美

7月11日～21日の10日間にわたり、オーストラリア パースにてGFSの世界会議が開催されました。今回、私は日本聖公会GFSの会長として、この世界会議に出席しました。GFSとは、Girls Friendly Societyの略で、英国ロンドンで始まったGFS活動は、日本では1916年に京都平安女学院にて始まりました。昨年2016年をもちまして、日本におけるGFSは創立100周年を迎えることができました。

GFSでは、3年に1度、世界会議が行なわれます。現在は25を超えるGFS加盟国から、チャプレン、シニアデリゲート、ジュニアデリゲートが選出され、会議に出席します。かつて2005年にアメリカ、フィラデルフィアで行なわれた第18回世界会議にジュニアデリゲートとして参加させていただいたことがきっかけとなり、2008年に韓国、ソウルで開かれた第19回世界会議と合わせ、今回が3度目の世界会議となりました。

今回の世界会議には、日本からは12名が参加し、世界各国からは21か国が参加し、参加者は総勢200名を超えました。開催国であるオーストラリアをはじめ、サポートメンバーとしては女性

のみならず、男性もたくさん参加されていました。

世界会議では、参加国による3年間の活動報告やそれぞれの国が直面している問題などをカントリーレポートとして報告します。かつては、口頭で読み上げるだけのものでしたが、近年はパワーポイントやプロモーションビデオのようなものを作成し、とても興味深いプレゼンをする国が数多くありました。それに加え、今回は日本が世界のGFSメンバーより支援を受け、活動している“ワールドプロジェクト”の報告も行いました。日本のワールドプロジェクトは前回の2014年にウェールズで開催された世界会議にて東日本大震災の支援を目的として、承認されたものです。GFSは9月29日の“聖ミカエル及び諸天使日”に世界中のGFSのメンバーが同じ式文をもって礼拝し、当日の献金が“ワールドプロジェクト”のためにささげられます。式文は各国持ち回りで作成し、担当した国が発題したテーマが織り込まれた多彩なものになるのですが、2011年の世界祈祷日には日本が作成した“核のない世界を目指して”をテーマにした式文が用いられました。この願いが、現在のワールドプロジェク

トとして私たち日本のGFSに奉仕する機会を与えてくれることになりました。



GFS 世界会議の様子

震災から6年がたった今、物理的な復興は進んでいるように見えますが、原発事故による影響は今もなお深刻で、福島の子供たちを取り巻く環境は大きく変わってしまったままです。この現状を共有するとともに、われわれ日本GFSが継続して取り組んできた福島の子供たちのためのキャンプについて報告しました。その結果、単なる3年間のプロジェクトとして終わらせることはできない、可能な限り続けていくべきだということ

とを強く実感させられました。

“互いに重荷を担いなさい”というGFSの標語をさまざまな用意されたプログラムを通して感じる機会がありました。ワールドプロジェクトもそうですが、例えば、各国代表が礼拝中に、くじ引きで選ばれたある国のことを想って代祷を即興で考えたり、バディ制度が用意されていて、バディのために手作りのプレゼントを用意したり……。極暑の日本を離れ、とても素敵な仲間と素敵な時間を共有させていただいたことに感謝いたします。



GFS 世界会議メンバーの皆さんと

第62 日本聖公会 G F S 全国研修会を開催

—『アイヌ文化にふれて』— 2017年8月4日(金)～6日(日)・登別温泉にて

北海道教区GFSチャプレン 司祭 ヘレン 木村夕子

昨年、創設100周年を記念した日本聖公会 G.F.S.は、いよいよ日本における第2世紀の道のりを歩み始めました。ずいぶん前から北海道のアイヌのことについて知りたいと求められていましたが、足踏みばかりしていました。2年前に広谷和文司祭による「アイヌモシリに生きる」の講話に出会い、ぜひ広谷司祭を講師に招いて全国研修会を開きたいと願うようになり、今回の開催という運びになりました。道外から24名、道内から27名の参加でした。G.F.S.の特徴の一つは年齢層の広さにあり、今回の最年少は生後6か月の乳児、最高齢は85歳でした。また、若年層

の参加者も多く、小・中・高生は11名、大学生・20代は7名、30・40代が8名でした。

2泊3日のプログラムは、1時間30分の座学が2回、アイヌ民族博物館見学、オハウ(アイヌの汁物料理)の昼食、知里幸恵銀のしずく記念館見学、知里幸恵、金成マツ墓参の祈り、登別の地獄谷散策、7つの源泉が湧く温泉に入浴、有珠聖公会での主日(閉会)礼拝と、その合間に支部長会議、今年7月にオーストラリアで行われたG.F.S.世界会議の報告、ワールドプロジェクト(東日本大震災支援活動)報告、一品バザー、アイヌ文様の切り絵ワークショップなどが加わり、

とにかく盛りだくさんでした。

2回行なわれた長時間の座学には小学生も熱心に参加し、中にはレジメの裏一面に書き足りない程のノートを書いた子もいました。それほど、初めて知る北海道の開拓に伴う裏歴史の残忍さと、今では失われてしまったけれど本来のアイヌの人々が紡いでいた暮らしに思いを巡らせ、アイヌの言葉の意味を知る時間になりました。アイヌとは「人間」を意味する言葉で、北海道が蝦夷ヶ島と呼ばれるよりもはるか昔から、アイヌの人々によってアイヌモシリ(アイヌ=人間の、モ=静かな、シリ=大地)と呼ばれていたのです。そして、ぜひ覚えてほしいと教えられたのは、アイヌ・ネノアン・アイヌという言葉(アイヌ=人間、ネノ=らしく、アン=ある、アイヌ=人間)。

幕末から明治初期にかけて、アイヌは不利益を極める商いを強いられ、民族解放戦争の際に幕府による虐殺を何度も経験し、そうしてアイヌ



の人たちは伝来の暮らしを断たれ、やがて和人と同化せざるを得なくなっていくのですが、これらの苦難の中で、アイヌをこぞって苦しめる和人の中に人間らしさなどひとかけらも見られなかったことでしょう。人間らしくある人間とは何か、それは、目の前にいる人を人間として認め、敬い、そのように接する人を意味すると思います。同じ魂を持った人間に対して、相手を低く見たり、自



分を優位に置くような関係ではなく、相手と自分を等しく同じ人間と考えるのが、人間らしい人間という意味だと、今私は理解しています。

アイヌ文化に触れて、わたしの心はアイヌと共でありたいと願うようになりました。アイヌの目から見える私は人間らしいのだろうか、アイヌの世界観から見える福音の世界とはどのようなものだろう。過去の過ちを繰り返すことなく、失われたたくさんの物を回復し、アイヌモシリ本来の姿を取り戻すことを願う祈りが生まれました。

共に平和を実現し、共に生きていくために大切なこと

—「第9回 日韓聖公会青年セミナー 2017」の報告—

青年委員 司祭 ステパノ 越山哲也

2017年8月3日(木) から7日(月) の日程で第9回目となる日韓聖公会青年セミナーが広島(広島市、呉市、竹原市大久野島)で日韓聖公会両国から30名で行なわれました。テーマは、「核、武力、差別をこえて 生命(いのち)、平和、共生の道」でした。

日韓青年セミナーが一貫して大切にしていることに「東アジアの平和」があります。このことを理解するためには私たちが歴史を学ぶ上で加害と被害の両面の視点を持つことであると思います。そのために証言を聴き、現場に立ち、見て、学び、思いを分かち合うプログラムを今回の

セミナーも軸にすえました。

8月3日(木) セミナー初日は、呉信愛教会(神戸教区)に集合して開会礼拝の後、李鐘根(リジョンゲン)氏より講演を聴きました。李先生は、朝鮮半島から日本に渡ったご両親のもと、島根県にて生を受けられた在日韓国人二世で16歳の時に広島に投下された原爆の爆心地から2.2kmの地点で被爆をされました。ご自身の生い立ち、差別、そして原爆投下の日のご自身の被爆体験を語っていただきました。

8月4日(金)は「大久野島」で平和学習を行いました。大久野島、瀬戸内海国立公園のほぼ中央にある、多くのうさぎが生息している自然に恵まれたきれいな島です。呉市から貸し切りバスに約1時間40分乗車して到着した忠海港(ただのうみこう)からフェリーで15分の距離にあります。私たちは大久野島にうさぎを見に行っただけではなく、ある目的をもって訪れました。それは加害の歴史の現場に立つということでした。

この島は、日本陸軍が1929年から15年間毒ガスを製造し、多くの外国人(特に中国人)を毒ガスで殺傷した加害の歴史を持つ島です。「大久野島から平和と環境を考える会」で平和ガイドをされている山内正之氏が私たちのセミナー

の平和学習の案内をしてくださいました。世界最初の原子爆弾が広島に投下され、一瞬のうちに多くの尊い命が奪われ、72年経過した今なお、原爆被爆者は後遺症に苦しんでいる被害

の事は多くの人知っていますが、一方で広島から約80kmしか離れていない同じ広島県にある大久野島の毒ガス加害の歴史を知る人はあまり

いません。恥ずかしながら私自身も初めて知りました。

山内氏は「私たちが戦争の悲惨さや愚かさを学ぶとき、自分たちの受けた戦争被害のことがばかり学び、自分たちが犯した戦争加害のことを学ばなければ大変な誤りをおかすこととなります。被害と加害の両面から戦争の悲惨さを学び、日本の犯した戦争加害の罪を自覚し、反省し、その上に立って核兵器廃絶を訴えてこそ、広島心が世界の人々に届くのではないのでしょうか。大久野島はそのための貴重な学習の場です。」と語っておられます。

日韓両国で平和を作りだしていくためにもまさに山内氏のおっしゃることが大切な事と思います。

8月5日(土)～6日(日)は神戸教区主催の「広島平和礼拝」に全員で参加しました。

5日は原爆記念公園を巡り、広島復活教会で被爆証言を聴き、夕方からはカトリック教会との合同プログラムで平和行進をして、カトリック平和記念聖堂で平和祈願ミサに参列させていただきました。6日の主日は広島復活教会で広島原爆逝去者記念聖餐式に出席いたしました。6日の夕方には呉信愛教会において分かち合いと開会礼拝を捧げて、教会の庭でバーベキューをしてフェ

アウエルパーティをもってセミナーのプログラムは終了しました。

連日35度を超える猛暑の中、体調を崩す参加者もありましたが、多くの方々からのサポート、そして参加者が互いに支え合って無事にセミナー

を終えることが出来ましたことを心より感謝いたします。来年は第10回目を迎え、韓国で開催の予定です。(写真は 大久野島で)



九州教区・九州地震被災者支援室より

支援活動～被災者を「孤立させない」ため～の取り組み《第10信》
 「だれが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができましょう。
 艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。」ロマ8:35



主の平和！ 残暑お見舞い申し上げます。

前回のお知らせから大分時間が経ちました。九州地震発生（前震4月14日と本震4月16日）から数えると一年四ヶ月が経過しました。これまでの皆さまのお祈りとさまざまなお支援ご協力に心より感謝申し上げます。

被災地では、壊れた家々の解体が進み、随分とさら地が目立つようになりました。避難先から仮設住宅、仮設住宅から新たな住居への移動。住宅や店舗の再建など、被災地も被災者もまだまだ多くの課題を抱えて懸命に取り組んでおられます。

そんな中、去る7月5日に九州北部豪雨が発生しました。当初、大変勝手ながら比較的小規模の災害だと捉えていましたが、実際に現地を視察し情報を収集するにつれ、その被害の甚大さにショックを受けました。私たちは大変微力ですが、しかし祈りつつ工夫をしながら、窮状にある方々の支援に取り組んでまいりたいと思います。引き続き、皆さまの祈りと、ご支援ご協力をよろしく願いたします。

◆これまでの祈りを、九州北部豪雨を覚え「九州地震・九州北部豪雨被災者のため」とし、内容を改訂しました。礼拝、集会また個人でお捧げください。

九州地震・九州北部豪雨被災者のため

命と愛の源である神よ、地震と豪雨により世を去った人びとの魂が、
 あなたのもとで安らかに憩うことができますように祈ります。
 一瞬にして、大切な家族や友人、また家や財産をなくし、
 今なお過酷な日々を過ごす人びとがいます。
 どうか主が、共にいてくださいますように。
 子どもたちまた大人たちが心に傷を負い、不安の中に置かれています。
 どうか主が、癒しと希望をお与えくださいますように。
 そして、再び歩み出した人びとを励まし導いてください。
 何ものもわたしたちをキリストの愛から引き離すことはできません。
 この苦難の時も、主の模範に従って、誰も孤立させないために、
 互いに祈り支えあうことができますように。
 すべての九州地震および九州北部豪雨被災者支援の働きを祝し用いてください。
 主イエス・キリストによって願いたします。アーメン

※広く「熊本地震」の名称が使われておりますが、被害は熊本県にとどまらず、大分県、その他九州全域に及んでいることから「九州地震」としました。

教区時報再録

小名浜支援センター閉所 感謝礼拝

★京都教区時報 つのぶえ
2017年7月20日発行 第700号

6月3日、小名浜支援センター閉所感謝礼拝が、小名浜聖テモテ教会礼拝堂で行なわれました。今年の3月末で管区の支援が終了しました。センターとしての活動はこれで終了ですが、小名浜聖テモテ教会が今まで行なってきたほっこりカフェの働きを継続して下さることになりました。

私は前日に現地入りしました。ちょうどその日は仮設住宅でほっこりカフェが行なわれており、懐かしい皆様にお会いすることができました。スタッフの方にお話をお伺いしました。仮設住宅には現在も、かつての3分の1ほどの方が入居しておられるとのこと。カフェには仮設の方だけでなく、新たな住居に移られた方も来られるとのこと。最後の一人の方が仮設を出て行かれるまで、この活動を続けるつもりであること、等々。その方のご自宅は今も帰宅困難区域にあり、この6年間にすっかり痛んでしまい、この度取り壊すことに決めたとの事でした。

その日は夕刻から地域の旅館を会場に感謝の集いが行なわれました。

感謝礼拝は中村豊前神戸教区主教司式、木村幸夫大阪教区司祭説教で行なわれました。木村司祭は小名浜ベースに3年半の間定住し、活動を続けられた方です。説教では次のようなお話が印象的でした。管区の活動としては終わりだが、今も仮設に生活している方々がおられる。これからも小さな働きであっても活動を継続し、全ての人が新たな生活を始め仮設住宅が閉ざされるときに、改めて感謝の集いを持つことができれば、と思う。

礼拝終了後、6年間継続して小名浜の幼稚園のために水を送り続けた大阪YMCAの代表の方々に感謝状が手渡されました。

この働きは、日立聖アンデレ教会の牧師館をお借りして始まり、小名浜聖テモテ教会の敷地内にコンテナハウスを設置して続けられて来ました。今回の集いには、神戸、大阪、京都各教区、また北関東教区、管区事務所、小名浜聖テモテ教会信徒、大阪YMCA、そして地域の社会福祉協議会の方々が集まってくださいました。教会は今回の働きで多くのことを学びました。けれども、今も苦しんでおられる方々がおられます。教会はこれからも祈り続け、できることを継続して行なっていかなければならないと思います。

司祭 ミカエル 藤原健久

聖公会手帳 2018 10月下旬発行予定！ 早めにご予約を！！

- ★ 2018年版も管区事務所が責任編集・発行します！！
- ☆ 2018年度 聖餐式聖書日課・教会暦などを完全収録！！
- ★さらなる機能性を追求し、使いやすい紙質で提供します！！
- ☆大型判・税込2,200円／通常判・税込1,200円（予価）

■ご予約は、聖公書店（Tel 04-2900-2771）または、お近くの書店まで

世界の聖公会の動向

- ・エルサレム神学会議
- ・米国聖公会・メソジスト教会とのフルコミュニオン
- ・スコットランド聖公会の同性結婚許可への投票をめぐる

管区渉外主事

司祭 ポール・トルハースト

○エルサレム主催による会議が世界中の神学者をつなぐ

エルサレムの主催者呼びかけのもと、3日間にわたる国際的な神学会議が開催され、参加者はインターネットを通じて参加した。

グローバル・サウス出身の神学者による大陸間ウェブカンファレンスは、聖ジョージ大学主催のもと、アングリカン・コミュニオンの宣教神学者 (Mission Theologian) グラハム・キングス主教、そしてインドのプネーで助教授として神学と宗教学の教鞭をとっているムトゥラジ・スワミー博士の2人によってリードされた。

中東、ナイジェリア、ミャンマー、南スーダン、エジプト、ブラジル、そして日本からの神学者も参加した。彼らはみな、2020年に予定されている次回のランベス会議に先立って出版が予定されている書籍のため、和解と宣教に関する論文を準備した。

グラハム主教は、神学的議論がテクノロジーの活用によって促進されることは喜ばしいと語った。「この手法は実にうまくいきました。私たちは真剣な議論の中にも、たくさんの楽しみと親睦とジョークを交わしました」

この会議は、カンタベリー大主教、ダラム大学、聖公会宣教協会 (Church Mission Society)、そしてUSPGによって設立されたパートナーシップである宣教神学プロジェクト (Mission Theology Project) によって組織された。その目的は、全世界の教会を再興して社会的な影

響力を備えさせるため、執筆、ネットワーク化、出版やグローバル・ノースの神学者たちとのつながりを構築することを通じて、新たな「教会博士 (Doctors of the Church)」をグローバル・サウスで育てることである。

○米国聖公会とメソジスト教会がフル・コミュニオン合意を提案

米国聖公会と米国メソジスト教会の間で、長期にわたる対話の結果、フル・コミュニオンのための提案がなされた。この提案は、15年間の探究と50年以上におよぶ公式会談が結実したものである。

『世界への贈り物、綻びを癒すための共生者 (A Gift to the World, Co-Laborers for the Healing of Brokenness)』と題された10ページの提案には「これは我々の教会がミッションの中でより緊密なパートナーシップを築くための努力であり、神の愛とキリスト教徒間の分裂の治癒のために、そしてすべての人の幸福のために一緒に働くことの証しである。」と記されている。

米国聖公会は「フル・コミュニオン」を「それぞれが他のものをキリスト教信仰の本質を保持するカトリックかつ使徒的な教会として認識する異なる教会間の関係」を意味すると定義しており、教会は「自立したまま相互に依存するようになる」と述べている。

提案された合意を発展させた米国聖公会一統メソジスト・対話委員会は、2教派が合併を求めているわけではないが、提案された合意の他の局面の中で、任命された聖職者の互換性を可能にするため「信仰と秩序の本質は十分に合致している」と述べた。

○同性結婚を許可するスコットランド聖公会の投票をめぐる

スコットランド聖公会の総会において、投票により同性のカップルが教会で結婚式を挙げることが可能と行なった。この投票結果は教会法規が変更されることを意味しており、結婚は男性と女性の間で行なわれるという定義が取り除かれる

ことになる。これは、あらゆる同性愛者の聖公会信徒がスコットランド聖公会では結婚式を依頼できることを意味している。

しかし、改正された教会法規では、聖職者が良心に反して婚姻を執行することを要求されることはないとして規定されている。

投票の後、アングリカン・コミュニオン総主事であるJosiah Idowu-Fearon主教は、以下の声明を発表した。

「聖公会において同性結婚に対して多様な見解があるが、スコットランド聖公会は、結婚は男性と女性の生涯にわたる結びつきであるとする大多数とは異なる立場をとる。聖公会におけるセクシュアリティに対する立場は、1998年のランベス会議で合意された決議1.10において非常に明確に定められており、取り消されない限りそのまま残されます。

総主事として、私は聖公会がキリストの愛の

中で共に歩くことを約束し続け、深い差異にもかかわらず、私たちが一致を維持し、あらゆる個人の価値を支える方法を考え出すことを望みます。LGBTIQ+(性的少数者)の人々を犯罪者のように扱うことに対して、アングリカン・コミュニオンの強い反対を強調することが重要です。」

投票に応じて、スコットランド聖公会の首座主教であるDavid Chillingworth主教は、「これは重要なステップです。結婚法規から性別を取り除くことによって、私たちの教会では今後、同性カップルがただの婚姻ではなく、神の目の前で結婚することになったのです。・・・しかし、個々の信仰的良心によって、この決定が非聖書的かつ重大な誤りであると受け止める人々にとっては、この決断が一方では困難と痛みを与えることとなります。私たちがこれから始める旅は、和解の旅でなければなりません。」と述べた。

☆ ☆ ☆



Disaster Response Efforts Target Vulnerable Communities in West Texas (2017.9.2)

*新聞報道などでハリケーンの被害状況は既に知らされていますが、米国聖公会の緊急支援活動についてERDのホームページを参照して紹介します。(ERD=米国聖公会支援団体)

ハリケーン「ハービー」が米国南部地域、テキサス州・ルイジアナ州などに大きな被害をもたらした。9月2日現在死者42人、被災者は数万人と報告されている。災害発生直後にERDは緊急支援活動を開始した。ERDは本部事務所に常駐

している数人のスタッフを中心に現地の教区や教会の人たちを組織して活動し、活動に必要な原資を提供する事はERDの重要な役割である。

9月2日の記事によると現在米国南部を直撃したハリケーン「ハービー」によって被災した人々の中で支援を受ける事が困難な人々を対象に支援活動をしている。テキサス教区、西テキサス教区、西ルイジアナ教区等がERDの担当者が現地の政府関係の支援団体や、教区・教会の支援者たちと対象地域で協働している。

現時点では緊急支援が主たる目的で、緊急物資、例えば衛生物資、飲料水、食料品などの配布を行なっている。また、コーパスクリスティー市近辺の人々には食料を購入できるクーポンを配布する事で、被災者の必需品購入を手助けしている。

支援資金を「Hurricane Harvey Response Fund」で受け付けている。

*続報 (2017.9.6) 前回報告 (2017.9.2) から更に死者数が60名に増加した。

ERDは西テキサス教区と協働してテキサス州南部の海岸沿いの地域の人々に生活必需品購入可能なクーポン券配布を開始した。

この地域では災害により持ち家を失った多くの人々が緊急避難所に避難している。生活インフラが失われ、災害によるダメージから回復するために必要な大型機械も無く、支援活動の人材も不足している。倒木により家屋が破壊され、電力線が切れたままになっている。この状況から復興するまでにはどれくらいの時間がかかるかを予測する事は非常に困難である。

ERDの責任者、ケイティ・メアーズ氏は状況把握と現地、テキサス教区・西テキサス教区の責任者と対応を協議する為に現地を訪問中である。

緊急支援活動が最重要事項ではあるが、この時点で長期的視野にもとづく復興のための計画立案も非常に重要である。

ERDの強みは現場の教会の信徒と協働する事により被災者の本当の必要性を的確に把握できる事であり、そのニーズに素早く的確に対応できる事である。

教会を中心に瓦礫整理の為にボランティアを募集し、支援活動を展開する予定を立てている。また、被災者の為に精神的ケアを提供する計画である。(管区渉外主査 八幡眞也)



沖縄愛楽園交流会館のため
建設費約1億、34棟建設計画は、聖公会信託資本財団が寄付の地として購入した土地を基に、1989年に開始しました。
2015年8月に豪雨災害が原因となり急遽つくし町教会交流会館には、パンセソンの協賛による建設費の提供を受け、建設中に発生した人的被害も多く、建設費が確保されているほか、沖縄県や米軍基地下の暮らしも深刻化しています。

- 行っている主な事業
- ①パンセソンの歴史と文化に由来する民間の教育活動
- ②建設事業 ③資料保存・整理・発信・掲載
- ④調査研究 ⑤観光・環境・企画
- ⑥調査研究 ⑦海外旅行・海外関係の構築、ボランティアコーディネート



社会事業の日
2017年10月29日

社会事業の日とは、社会事業の発展と普及を目的として、毎年10月29日に開催される。社会事業の発展と普及を目的として、毎年10月29日に開催される。

「ラウンドカラー およびカラー留め」の入荷のお知らせ!

ラウンドカラー (サイズ14.0インチ~17.0インチで0.5インチごと。カラーの幅depth1"〈2.5cm〉・サイズ16.0インチと16.5インチはカラーの幅depth1¼"〈3cm〉もご用意いたしました) と、カラー留め A (前)・B (後) が入荷いたしました。英国よりの直輸入品です。英国での単価値上げにより、やむを得ず、今回価格改正いたしましたことも併せてお知らせいたします。

・ 価格: ラウンドカラーは1本1,100円また、カラー留め A (前) 350円・B (後) 400円です。この機会にぜひご購入ください!

申し込み連絡先: 管区事務所 E-mail: suzuki.po@nssk.org Tel: 03-5228-3171

■記事の訂正とお詫び

本紙 2017年6月25日発行第323号9ページ「大阪教区 / 京都教区-特別協働教区発足記念合同礼拝の報告-」の記事で「写真提供: 竹林徑一司祭」は、「撮影: 佐々木克己氏、写真提供: 大阪・京都特別協働教区運営委員会」が正しく、訂正してお詫びいたします。

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nssk.orgprovince/>
☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。